

梨

絵／石阪 春生

西川 邑子

隠れていたのではなかった
サイフォンの影で見えなかつただけ
何日も とり残されていた

もちあげると

手のひらに

ずっしり のしかかる

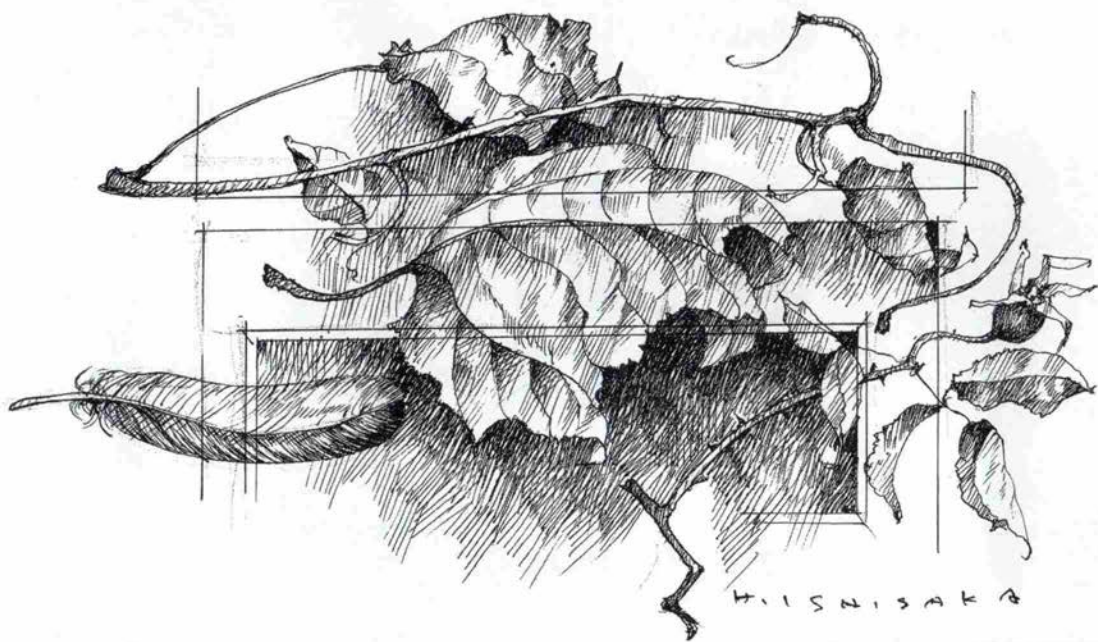
表皮にしわがより

もう待てないという

ナイフでうすく剥いていく

ながい沈黙からとかれ

饒舌はとめどもなく 指を濡らす



(モルツ球団: 真弓 明信)



な生 ヤツ。ル

100%
生ビール
モルツ



飲酒は20歳を過ぎてから。あき缶はリサイクルへ。

製造・販売 サントリー株式会社

□私の意見

新首都を神戸に

川上 勉

オールスタイルグループ会長



〔新首都の役割〕

新首都は、日本の進路を示す神代的役割を果たすべき
と私は思う。日本の進路つまり新首都の条件とは、第一
に阪神・淡路大震災のような天変地異と地球環境問題に
対応する世界最先端の知恵と技術を装備し、第二にわが
国は戦争放棄の平和国家であるから、香り高い文化をリ
ードすることだ。

〔新首都建設で国家の進路を明確にせよ〕

わが国の新首都が建設されるに当たり、世界の目が集
まっている。というのは今、わが国は世界一外貨を保有
する経済大国であり、未曾有の都市災害である阪神・淡
路大震災を経験した技術大国だからである。

世界のモデルたりうる新首都の建設によって地球、人
類のために貢献する国となり、国民には日本人であるこ
との喜びと誇りを、産業企業には活動理念や行動の拠り
所を、国家には名分ある進路を与える。このような志を
もつプロジェクトにするべきである。

〔新首都に最もふさわしい場所は神戸である〕

新首都建設地には、それを受け入れる力量が必要であ
る。新首都は国際都市、国際政治都市になる命運を抱え
ている。世界の人々、機構、機関を受け入れるためには
そのための土壌、環境のあるまちなちであることが不可欠で
ある。

神戸は居住外国人の国籍が多い。明治元年一月一日の
開港以来の国際都市であり、空港、新幹線、海路も開か
れていて交通輸送が至便である。マルチメディア都市構
想を国家の支援を受けて推進し、地球環境問題にも取り
組んできた。「山、海へ行く」と言われた埋め立て工法で、
新たにわが国初の海上都市を生み出した。

神戸での新首都用地は大阪湾上の海上都市用地を中心
に求めることが可能である。さらに近県京阪奈はわが国
文化の発祥の地でもある。

神戸は国際性、災害対応、情報文化などの面で、平和
国家の新首都建設に極めて適した土壌環境と、すぐれた
力量を具備している唯一のまちなちと言える。

よみがえれ美しい神戸



私は忘れない

語り継ぐ役割を担って…

加藤登紀子 （歌手）

あの日の後、歌ってみようと思つて作つた曲があります。泣けないでいる子供たちがいる、泣けなくらい悲しい経験をした人たちが多い、そういう話を聞いて、思いが込み上げて来て、一夜で作つた歌があるのです。でも、なんとなく世に出せず、しまつておいたのです。

どうして歌わないの、と聞かれるのですが、つらい気持ちでいる人に届く歌だろうか、とそのたびに自分に問いかけています。

「悲しみの海の深さを／だれが知つているだろうか」という歌なのです。いつ歌うことができるのか、それは、この神戸の地に立ち、みなさんとお話してみれば、あるいは分かることなのかも知れません。ひよっとしたら今日歌うことができるかも知れません。

小学生のとき、京都にいたのですが、バレエを習つていて、初めての発表会が神戸でありました。発表会が終わって、母が何を思ったのか、港を見ようと言ひ出し、二人でコトコト歩いて行きました。人気がない突堤に立つて、母は海の向こうを見つめていました。その横顔は、いつもの母とは違つて、女としての母の顔でした。神戸

の港とそこに立つ母の姿が印象深く私の記憶に残つています。

旧居留地界限も大好きなところで、私の散歩道でした。大震災の前の年、神戸国際会館でコンサートを開いた機会に、絵と書の個展をジーニアスギャラリーで開かせたもらったことがあります。

結果的には夫になる藤本敏夫と密会をしていたころ、彼が学生運動に絶望して、西宮の実家に帰つてしまい、後を追つて西宮を訪ねたことがあります。その家は全壊して、後片付けを手伝いに行くと、彼の子供のころのノートや作品などが出て来て、彼の歴史を発掘しているようでした。

こちらに来ての間、AM神戸に出演したり、住吉中学でコンサートを開いたりしたのですが、たくさんのボランティアがさまざまな活動している中で、私は《忘れない係》になろうと決めました。いま、私たちは一年前のことでもすぐ忘れてしまう時代に生きているのではないかと思います。縄文時代の遺跡も大切だけれど、一年前、五年前の自分がどうしていたのかを覚えておくこと



（かとう・とき）一九四三年中国東北部ハルビン生まれ。六六年東京大学在学中「赤い風船」で日本レコード大賞新人賞。七二年藤本敏夫氏と獄中結婚。八七年「百万本のバラ」発売。九四年多可郡中町で日本酒の日のコンサート。アルバム「モンズン」発売。九五年活動三〇年をたどった全曲集「加藤登紀子の世界」発売。九六年一月十二日、住吉中学で「悲しみの海の深さを」などを歌う。

も大事なことだと思います。

風景は変わって行くのですが、心の中に残されたものは語り継いでいかなければならないと思っています。神戸や阪神間の人たちと途切れなく接点を持ちながら、広く、多くの人たちに語り継いでいきたいと考えています。

これまで関西の人と話をしていると、何を話してもすーっと通り過ぎてしまうような感じがしていたのですが、いまはだれもがきちんと聞いてくれて、心に留めてくれます。人が何を感じているか、何を願っているのかを聞き取ろうとしている、そんなふうになっていることにとっても感動しました。今年からFM大阪でレギュラーの番組を始めることにしたのも、こうした発見が一つのきっかけでした。

母は、私に中国から日本に引き揚げたときのことをよく話してくれました。佐世保の港に、ポロポロの着物でくたくたになって上陸したとき、たすきをかけた婦人会

の人たちがお辞儀をして迎えてくれたが、だれも手を取ってはくれなかった、配給された乾パンは虫が混じっていて食べられるものではなく、その仕打ちがとても悲しかった、と繰り返し話していました。中国から日本への生き抜く旅はみんな同じだったのですが、引き揚げてくると、引揚者とそうでない人とのあまりにも大きな差が見えたのです。空襲のなかった京都では、その落差はもっと大きく、そのいたたまれない思いから焼け跡の東京へ移ったのです。

神戸も、立ち上がった人、まだ立ち上がれない人、その差がしだいに広がってくるかも知れません。悲しき、寂しきはこれから、より深くなるかも知れません。マスコミはしだいに去っていき、関心は薄れていくでしょう。けれど、私は常に時代遅れの女です。時代が忘れていってしまっても、私は忘れないでいたいと、心に決めていきます。

（二月十一日、神戸で）



(あさい・のぶお) 1935年新潟県生まれ。東京外大卒。読売新聞ワシントン支局長など海外勤務十年以上。米国ジョージタウン大客員研究員、三菱総合研究所客員研究員などを経て87年から現職。著書「アメリカ50州を読む地図」「民族世界地図」ほか。横浜市在住。

■ 浅井信雄対談シリーズ(18)

人生三倍楽しめる

浅井 信雄 〈神戸市外国語大学教授〉

麻路 ささき 〈宝塚歌劇団星組〉

浅井 お仕事は順調ですか。

麻路 はい。昨年は地震で大変だったんですが、今はもう大丈夫です。順調に行っています。

浅井 地震の後はご苦労が多かったですか。

麻路 二月の初めに名古屋の公演が予定されていて、稽古場が使えなくて、阪急社員用の体育館でやったり大変でした。生徒は、家に住めなくなった人も多くて、避難所から通ったり。体育館は暖房がなくて、コートを着て練習しました。あんなことは初めて。八〇%しかできあがっていないくて幕を開けるなんて、前代未聞のことです。

た。

浅井 普通だったら一〇〇%、あるいはそれ以上に仕上げてからなんです。初日は緊張したでしょう。

麻路 わたし、地震でケガもしていたのでもう大変。でも出れるだけまし、という感じで。ほんとだったら休演してもおかしくない状態で。はだして踊る場面があるので、包帯は目立つからテーピングして…。

浅井 どんなケガを？

麻路 倒れたタンスを元に戻そうとしてひねって腫れ上がらせてしまった。鍼の治療に通いながらの公演でした。



(あさじ・さき) 1983年初舞台。87年パウホール公演で新人公演主役。92年「白夜伝説」以後、星組2番手男役スター。95年、震災後の宝塚大劇場再開公演「国境のない地図」で星組トップスターになる。96年4月に「剣と恋と虹と」を東京公演、5月10日から宝塚大劇場で新作公演の予定。

荷物も出せなかったのでリュックひとつで逃げ出した格好。名古屋で被災者ルックしていました。

浅井 震災で、宝塚の大劇場で公演できなかったというのはつらい経験だったでしょうね。

麻路 宝塚がなくなったらどうしようかと考えました。一年間自粛しようということになるとどうすればいいのか、わたしはこれしかできないでしょう…。

浅井 やるべきだと決断された方は偉かったと思います。たとえお客さんが少なくても、やるほうにも見る方にも、両方に元気を与えてくれましたね。神戸の南京街でも、恒例の春節祭があつた二週間後に予定されていて、やるべきか中止するべきか迷いがあつたのですが、やってみると予想以上にみんなに元気を与えた。

麻路 名古屋の公演が始まったとき、わたしの知っている芦屋の方は、大阪まで六時間かけてたどり着き、新幹線で名古屋に来て、宝塚歌劇を見て、おふろに入り、食料の買い出しをして、芦屋の避難所へ帰って行ったというのです。それを聞くと、ああ、やってみてよかったです。つくづく思いました。東京の人も、四月に宝塚に来て、阪急電車の窓からみた光景や、ポロポロになった花の道

を歩いて、テレビで見えていたけど、自分の目で見てもっとすごいショックを受けた、と言っていました。これも宝塚で公演できたから、地震の被害の本当のところを知ってもらえる機会になったのでしょうか。

浅井 三月三十一日からの宝塚再開は星組公演からでした。しかも麻路さんのトップおひろめ公演。

麻路 ええ、でも公演中は何度も余震があつて、開演をちよつと待ってみたり、開演のアナウンスをしてから震度3くらいがあつて客席から悲鳴があがつたり…。

浅井 そんなときは中断ですか。

麻路 いえ、幕が上がつてしまうと、分からないし気にならない。後で聞くとフィナーレの途中で大きながあつたらしいのですが気づきませんでした。

浅井 お客さんの様子はいかがでしたか。

麻路 交通事情が悪いし、泊まる場所がないし、団体客のキャンセルが続いて、お客さんは半分くらい。わあ、寂しいと思いつながら、この時期にこれだけ来てくださるのはありがたいなあ、という思いの方が強かったです。

浅井 客席が半分位というのは、珍しい？

麻路 「ベルサイユのばら」で宝塚がブームになる前は、



浅井信雄さん

しています。現実にはいなくても、いないものを求めてしまうのが女性客の心理なんじゃないでしょうか。

浅井 女性から見た理想の男性像とは？

麻路 男の、色気はほしいけど男の匂いはほしくない、というのかなあ。レッド・パトラーをやったことがあるのですが、髭をつけてはいるのですが、髭を剃る生活臭さは出したくない、そういう感じでしょうか。

浅井 生々しさを消したところの男性の理想像ですね。お人形みたいなどころですか。

麻路 そうですね、そっちの方に近いんじゃないでしょうか。口紅をしても、せりふや歩き方は男の人に近しいという姿で。手がゴツゴツしているのはいやだけど、動かし方は男らしくという…。

浅井 男役になりきるのは大変なことですね。

麻路 作り上げる役ですね。ですけど、男の人を研究してリアルにやると生々しいものになっちゃう。

浅井 背が高いから、宝塚に入るとき、これなら男役で成功するという自信がありましたか。

麻路 入学するときは今より三センチ低く、どちらでもできそうだったんです。声も、今は低いのですが、そのころはキンキン声。ただ、男役の人にあこがれ追いかけていたファンだったので男役をしたかったんですね。

浅井 声は変えたんですか。

麻路 キンキン声でしゃべる訳にはいけません。ところがせりふの多い役をやるようになると声変わりしてきて、低くなってきたんです。

★ふだんも男っぽい歩き方に

浅井 声以外に、男役をやるために変えなくてはいけなところはあるなことでした。

麻路 歩き方。今でもほとと気が抜けると、こう（両手で内足の形を示して）なってしまう。男役としてはダメ。せめて真つすぐにしないと。舞台で歩くときは大股にしないといけないので、ふだんもそうなってしまうて。靴

よくあったらしいのです。古い人は「こんないつもだったわ」とおっしゃるのですが…。

浅井 わたしも「ベルサイユのばら」は見ました。ストリーは残酷な部分もあるんですが、それを感じさせない。とことん美しい。

麻路 いまも結構リアルにつくっていますよ。この間のシラノ・ド・ベルジュラックも高い鼻をつけずにやっただけです。内容的に暗いところがあっても、華やかにきれいにというのが宝塚のモットーです。よく言われるのです、世の中不景気だけれど、ここでは思いっきりお金使って、ライトも衣装も明るく豪華で気持ちがいいと。浅井 そうですね。こういうときに華やかで明るいものが励みになる。力を与えてくれますね。

麻路 現実を忘れさせてくれるのでしょうか。まだこんな世界があるの、ということですね。

浅井 わたしの専門の国際政治はリアルな世界そのものから、「ベルばら」を見たとき、何という美しい世界かなと思えました。感動して、一生懸命拍手したら、男の客が少なかったので目立ちました。観客に女性が多いということを前提にして演技されるのですか。

麻路 男役なので、女の目から見た理想像の男性を意識



麻路さきさん

も、ふだんからべったんこをはいていると重心のかけかたが変わってきて。女の人はつま先から歩くじゃないですか。わたしはかかとから歩くようになってしまってます。ダンスでリフトもあるので、四〇キロ以上ある人を持ち上げる練習もしています。筋肉もすごくつきました。

浅井 公演での失敗はありますか。

麻路 ばれない小さな失敗はあります。せりふを間違えたりとか。早変わりのは、五〇秒くらいで着替えるのですが、下級生のころ、次の場面の衣装を着せられてしまったことがあります。いや、これで、とそのまま…。

浅井 でも失敗しても気にしていたら前に進めない。通訳やる人が、間違えてもそれを気にすると次の言葉が耳に入ってくる、と言います。失敗したと思つたらすぐ忘れて乗り切るそうです。ところで中心的な役をしている人が組の上の地位ということになるのですか。

麻路 舞台の上では主役なんですけど、一步袖に入ると違います。舞台の、決められた範囲で踊っているときに手や足が当たったら、どっちが悪いとは言えませんが、自分より上級生だったら謝らないといけません。

浅井 出る杭は打たれる…。

麻路 浮いてしまって、仲間に入れてもらえない時期があったりとか。わたしは組み替えを経験したことがある

のです。組み替えというのは、会社を替わるようなものです。組が違つて、システムもカラーも人も違う。組み替えは、人をうまく使うためにもあるのです。みんな優しく受け入れてくれるのですが、それで急に役が付きだしたり…。宝塚のスターというのは、力だけではない。何かがあるのでよね。会社からスター路線に上げられても、失敗したら、本当はいい脇役ができるタイプであってもそうはなれないこともあって、やる人もいますね。反対に、脇役の人は名前が上がつたり写真が掲載されたりしなくても、役者としては十分おもしろいことを経験できる。長生きできます。わたしたちは、トップをめざしていてもそれを逃してしまつと早く終わつてしまつ。どっちを取るか…。

浅井 会社の中で社長をめざして競争している重役たちという感じですね(笑)。

麻路 そうですね。今このチャンスを逃してしまつともうなれなくなるという。下が上がつてくるためにもう引き取りをということになつてしまつ。

浅井 トップはまたつらいですね。

麻路 責任感が植え付けられますね。この間まで無責任でいたのが、いきなり責任を持たされてしまつ。一組九十何人の座組、どこの舞台でもこれだけ大きな座組はないんですよ。東宝ミュージカルとか劇団四季だつたぶん三十人くらいのチームでしょう。

浅井 横綱はコロコロ負けても下に転落することはない。ところが宝塚ではそうはいかない。

麻路 でも横綱に似ているんじゃないですか。はいダメだからということにはならない。二番手まではそういうことはあります。

浅井 それも相撲と似ていますね。大関から転がり落ちちゃつた小錦みたいな。

麻路 横綱と違うのは、横綱は自分に合わせた相撲をしてもらえるわけじゃない。でも宝塚は、トップに合わせた作品になつていく。演出家の先生とかプロデューサーの方に失敗しないような作品を作つてもらえる。

浅井 最初から横綱相撲が取れるような構成になっていたのですね。

麻路 一番よく見えるようにしてもらっているのです。

浅井 それで失敗したら大変(笑い)。うれしかった瞬間はどんなときですか。

麻路 作品が成功したときももちろんですが、香盤表というのがあるでしょう。役が壁に張り出される。いまだつたらポスターが先に張り出されて自分がどんな役をするのかは分かっているのですが、下級生のころは、人より役が多かったりすると…。

浅井 相撲の番付と同じですね(笑い)。

麻路 ええ(笑い) 新人公演のとき二番手に上げられていたとか、主役にわたしの名前が書いてあったときとか、その驚き。えーっ、何でわたしが、って。

浅井 中心的な役を与えられて、初めて舞台上で登場する、そんなときもうれしいでしょうね。

麻路 宝塚特有の大階段を、全員が迎えてくれているところへ降りて行く、あの瞬間ほど気持ちのいいものはないですよ。

浅井 大勢の人の前で演技をするのが好きなんです。

麻路 メイクして衣装を着ると気持ちが変わります。舞台ではなくて、パーティー会場であいさつをと言われるとドキドキしちゃう。簡単なスピーチでも間違えないかと…。大劇場でせりふをしゃべるときは快感がある。

★スカートは一枚も持っていない

浅井 ふだんの生活は、わたしには想像もつかないのですが、お仕事と切り離せるのですか。

麻路 お休みでも切り離すことは難しいですね。鍼治療に通ったり、スポーツマッサージに行ったり、お買い物にしても美容院に行くにしても全部宝塚と結び付いていますね。長いお休みになると、麻路さきだと分からないところに旅行するんです。

浅井 お忍びの旅行はどんなところに。

麻路 ヨーロッパが好きなんですけど、遠いから、ハワイとかバリとかオーストラリアとか、そんなところでぼーとしてるのが好きで。スポーツすればいいのですが、あまり日に焼けてはいけなし、ケガをしたら大変だからぼーっとしていただけ。

浅井 外国だと目立ちにくい。

麻路 全然目立たない。どこの国の人と聞かれることもある。公演の関係で髪の毛を金髪にしていることもあるし。ジーンズ、Tシャツ、帽子をかぶっていると、男の子、と聞かれることもあります。

浅井 国内ではどんなお忍びスタイルを。

麻路 忍ばない。もうあきらめちゃって。「お写真を」と言われたときはごめんなさいと言ってかんべんしてもらうのです。あれ、ここに来ていた、なんて証拠写真にされるでしょう(笑い)。

浅井 その点はこれ以上追求はしませんけど(笑い)。サングラスをするとますます目立つんですね。隠れようとしていることまで分かっちゃいます。

麻路 帽子をかぶったりすることはあります。今は金髪にしている子が多いからいいですけど。でもわたし、スカートをもっていないんです。昔、正装用に一枚もっていましたが、いまは…。

浅井 男役に徹底していますね。温泉にはよく行きま

すか。

麻路 近いですから有馬へ。一日休みがあると、みんなよく行くのです。宴会も有馬が多いですよ。「わっ宝塚だ」と騒ぐ人も少ないし。行けば、お久しぶり、みたいな感じで。

浅井 宿の人はそれでも、お客さんは騒ぐでしょう。

麻路 一度ね、お風呂に入っていたら、わあっ宝塚の人、とびつくりされて。うっそー、じゃなくて、いやだあー、という感じで。素顔を見られたんですね(笑い)。

浅井 みなさん宴会もされるんですか。

麻路 全員で、お疲れさま、という宴会。余興して…。

浅井 お酒も飲んで。



麻路さきさんと浅井信雄さん（宝塚ホテルで）

麻路 みんな強いですよ。体を動かしているから。そのときは上下関係抜きの無礼講で。演出の先生に普段聞けないことを聞いたり。二、三時間ギヤアギヤ騒いで、あつというまに終わっちゃう。何人かは酔い潰れてぶっ倒れている…（笑い）。

浅井 これはめったに外に出ない話なのでしようね（笑い）。裏方の人も一緒ですか。

麻路 そういうときもあります。集わないとコミュニケーションション取れないから。

浅井 それは大事なことです。たくさんの人たちが舞台を支えているのですから。わたしもテレビ局の打ち上げのパーティーに出ることがありますが、知らない人が一杯いるんです。こんなに多くの人に支えられていたのかと思うと、と感謝の気持ち述べたことがあるのです。

宴会も、そういうことのためにやるんでしょうね。

麻路 会話をしないとお互いどう思っているかが分からないでしょう。

同じ敷地内にいるわけですから気持ちよくあいさつできるようにしておくのは大事なことです。最近、あいさつする人が少なくなつたように思います。下級生が歩いてくるので、おはようと言おうとしたら、むこうは何も言わずに、あ

ら、どうしたの、というような目で見ることもあるんです。**浅井** 廊下ですれ違つてあいさつしない学生が多くなりました。わたしがドアを開けて入ろうとしても、向こうから来た学生がわたしを押しつけて出て行く。

麻路 わたしたちは、先生が来られると分かっていると廊下に出てドアを開けるように立つて待つと教えられました。男役は、ヨーロッパ風紳士の、控えるマナーも教えられています。

浅井 今年の予定はどのようですか。

麻路 秋までは公演のスケジュールが詰まっています。

浅井 幸せですね、好きなことが一生懸命できて。

★第三の人生にもやりたいこといっぱい

麻路 いやなことはすぐ忘れることができるから。舞台に上がっているとストレスなど吹っ飛んでしまいます。

時期が来て宝塚が終わつてもまた次のことをするからそれも楽しみです。別の仕事になるか、結婚になるかは分かりませんが、人の二倍、人生を楽しむことになるのだと思っています。

浅井 考え方がはつきりしていて、男性的ですね。

麻路 小さいときからそうだったようです。宝塚までは第一の人生。今が第二。これが終わつたら第三の人生かなあ…。これまでやりたいことがたくさんあつて、もしたカラジエンヌになつていなくなつたらこれをやろう、あれをやろうという候補がたくさんあつて。

浅井 それはとても幸せな話ですね。サラリーマンは、会社を辞めたらやるのが分からなくて、という話はよく聞くのです。

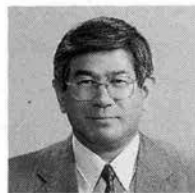
麻路 それは、四十年も五十年も同じ会社で働き過ぎたんじゃないでしょうか。

浅井 それでは、パターンが決まっちゃったんでしょう。ほかの人生考えられない。不幸ですね。今日はすばらしい人生論まで聞かせていただいて楽しかったですよ。

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

地域復興と新たな都市
づくりの全面協力して阪神・淡路大震災の
教訓を活かし

井上 登 〈NTT神戸支店長〉



今回の震災では、多くの教訓を得ました。防災対策は決して一朝一夕で出来るものではありません。今後の設備構築、また、避難、誘導などのソフト面の対策についても、常に危機管理を念頭に、おいた対策が講じられるよう後世に伝えていくことが大切です。

★光化／地下化／通信センタ分散化

神戸の求心力のある魅力的な街づくり、快適な住環境づくり、地元産業の復興、災害に強い都市づくり等々多くの復興課題がある中で、マルチメディア情報通信はすべての課題の共通項として欠かせないものであり、地域から大いに期待が寄せられています。

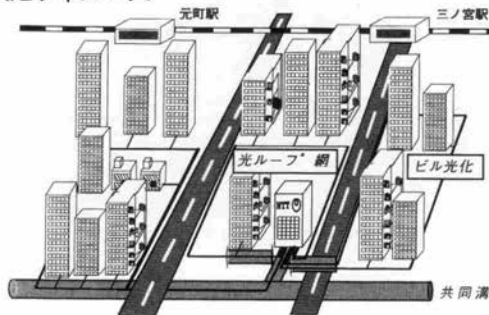
そこで、全国に先駆けてマルチメディア時代を展望したアクセス網の光化をはじめ、災害に強い通信ネットワークをめざす地下化の推進、さらに大規模災害時において迅速な措置、通信設備の一層の信頼性向上をはかるため交換ポイントを分散設置する通信センタの分散化を復興に向けての三つの基本方針として取り組みたいと考えています。

★一日も早い神戸の復興を

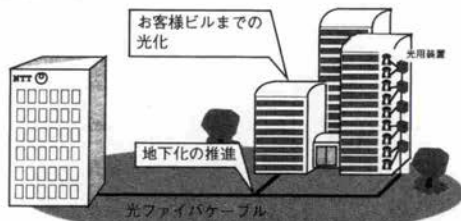
神戸産業の復興に対しても、企業としてできる限り寄与していきたいと考えています。

そこで、社内での各種交流会開催、イベントの神戸誘致による市内宿泊の奨励、神戸特産品の社内通信販売等「Welcome to KOBE & Buy KOBE's 運動」を展開し、地元産業の一日も早い復興を願っています。

A.ビジネスエリア



B.集合住宅エリア



マルチメディア時代を展望した光ファイバー網

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

豊かな日常生活を保証する 魅力あふれる防災都市に

21世紀を見越した

エネルギーシステムを

有本雄美

〈大阪ガス株式会社
常務取締役兵庫事業本部長〉



神戸市中央区の球形ガスホルダーは地震にもびくともしなかった

「お客さまに支えられている」。震災では、そんな当たり前のことを再認識しました。全国のがス事業者のみなさんの応援もあり、昨年4月には復旧作業を完了しました。これからは、街全体が復旧から完全な復興へ向かうときです。

復興の核としては、職・住が一体となった魅力あるインナーシティの再建が必要です。山と海に挟まれた美しい神戸を空洞化させてはなりません。郊外へ郊外へと向かう住民が、インナーシティに回帰するような街づくりを時間をかけても造ろうという、官民の固い決意がまず必要ではないでしょうか。

震災をふまえた神戸は最先端の防災都市になることでしよう。国の重要施設の誘致などによって、第2首都的な役割を果たすことも充分可能です。そのような動きが出て来て欲しいと思います。

エネルギーシステムに関しても、将来の都市や住まいのあり方を見越して組み込むことが必要です。例えば、熱と電気を同時に産み出す、効率の高いコージェネレーションシステムを組み込んだ「地域冷暖房」。気密性や断熱性の高い住居にふさわしい「床暖房」等。

私達も理想をもって地域の発展に寄与していきたいと考えています。

清酒 **大関**

創業者がつくりたかった味。

大吟醸酒 大坂屋
長兵衛

超特撰 大吟醸酒


1.80瓶詰 3,750円

720ml瓶詰 1,660円

300ml瓶詰 780円

180ml高級瓶詰 570円

※価格はメーカー希望小売価格です。(消費税込み)

 大関株式会社

まず、ひと口ふた口、
肴なしで飲む。



未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
お酒はおいしく適量を。

気概を持って発信を

I・C・C・Aの必要性

年末、年始を六甲の山で過ごした。クリスマス寒波が残した雪や、'95年最後の夕陽に暮れなすむ神戸の街影などを眺めながらこの一年の様々なことに思いを巡らし何とも感慨深いものがあった。午前零時を期しての新年を迎える港の汽笛、窓を開けると吹き上げる冷気と共に幾つもの音が耳に飛び込む。テレビから流れる音とは異なる生の温もり、寒さも忘れ暫し聞き入ってしまった。そして新年、7時過ぎ東の雲間から初日が上がり神戸の街を徐々に明るくしていく姿。復興へ向け本当のスタートと



〈日本銀行神戸支店長〉

遠藤 勝裕の

なる本年の象徴であつて欲しいとの願いを込め思わず拝礼。

さてこの連載も愈々最終回。これまで復興へ向けて六つのキーワードにつきお話してきたが今回はその締めくくりとして、I（インフレーション）、C（カルチャー）、C（コンプライド）、A（アミューズメント）の必要性についてお話しておきたい。

これらは第一回目で指摘したように、「ヒト」が集まり活気ある地域作りをしていくための要件であり震災前の神戸には満ちあふれていたものばかり。今神戸を中心とする被災地は人口減少という大きな壁にぶち当たっているが、これは今後の復興を阻害する壁である。具体的には定住人口の減少と流入人

経済復興へのキーワード／最終回

口の減少という2つの壁であり、復興のためには何としてでもこれを取り払わなくてはならない、少なくとも突破可能な薄い壁としなくてはならない。そのために必要なのがI・C・C・Aであると私は考えている。まずは、I、情報。幸い当地は国土軸の中核にあるだけに受ける情報の不足をかこつことは少ない。しかし発信の方はどうであろうか。当地の実情を発信するに当たり「ええ格好しい」は不要。とにかく泥臭く主張することである。復興投資の前倒しや規制緩和の必要性等発信し続けないと忘れられてしまう。

Cの1つ、カルチャーはどうであろうか。文化という言葉には色々な意味がある。「らしさ」はその1つ。神戸らしさをどう取り戻していくか重要なポイントである。しかし受身では戻ってこない、神戸人が自ら作り出す、再生する気概を持たなくては「らしさ」は出てこない。

A、アミューズメント。価値観の違いにより見解が異なるかも知れないが、流入人口を増やし、職場を作り出し、定住人口を増やしていく。そうした流れを作り出すにはアミューズメントの充実が不可欠。ルミナリエの成功が一つの答えを示唆しているが、具体的な中味は幾らかでもある。但しキレイゴトでは済まないことも覚悟しておく必要がある。

そして今1つのC、自信である。地域復興を叫ぶ地方にでかけるとよく耳にするのが、自らの土地を卑下する言葉である。住んでいる人がけなす地域に誰が好んで住むであろうか。第一そんな所に人を呼ぼうなどというのは失礼である。この街も然り、今後の復興と発展につき我々が自信を持つこと、そこが出発点、そうでなければ人は集まらない、金も集まらない。何よりも日本経済全体の発展のためには神戸経済の再生が必要であることを自信を持って発信し続けていかななくてはならないことを改めて強調しておきたい。

神戸に来て、 見て、考えて

あの日から一年が過ぎた。
今でも時々、あの地鳴りの音を思い出す。

「ゴオーツ」

そして「ギリギリッ・・・」と鉄骨のきしむ音。
後から髪を思い切り引つ張られたように、ベッドこ



〈神戸市議員〉

小山乃里子の

新米議員奮闘記／最終回

一応はマスコミのはしくれ。カメラを持って歩いたが、一枚も写さなかった。正確には写せなかった。母の所に身を寄せ、大阪のスタジオに通ったが、どうも落ち着かない。

「逃がっている」

そんな気持ちがついてまわって、一週間で神戸に帰った。

水もガスの、交通手段も途切れた街に、どうして帰るのか。母も、スタッフも言ったけれど、

「みんな、あの街でがんばっているのに・・・」

結局、その思いが市会議員の立候補につながったのかもしれない。それと、四月、加藤登紀子さんが東灘の住吉中学の講堂で、チャリティコンサートを開いた。板敷の講堂でおトキさんをかこんだ輪は、小さいけれど、暖かかった。

「私たち二人、昔から似てるって言われてて、お互い迷惑してるんだけど・・・」

馬鹿話をしながら、私は、この輪をもっと大きくしたい、と心から思った。

思えばあの日から、

「この震災の街、神戸のために何が出来るとのだから」と強く思うようになったのだ。

この一月、住吉中学で再びおトキさんのコンサートがあった。輪は三倍ほどになっていた。呼び出されて私は言った。

「昔以上の素敵な街をみなさんと作りましょうね」

すっかり、市会議員みたいな挨拶になっていたのが、我ながらおかし。

年末、有志で「観光復興促進神戸市会議員連盟」なるものが出来た。私も企画委員として参加している。

私が議員になる前に、既に決められていた大型プロジェクトにはまだなじめないが、神戸に来て、見て、考えて、ということなら、私の得意の分野だと思っ

て、神戸の復興にむけて、一緒にがんばりましょうね。

と東へ身体がかたむいて、

「あつ、このままマンションが倒れる」

ふだんなら見えない空が見えて、そこには異様に大きく赤い月があった。

真つ暗な階段を三十階ぶんおりた。

どこかで壁の亀裂から、砂が落ちるようなサラ、サラ、という音。そして、時間と共に悲鳴のような救急車のサイレン。私の震災記憶は、すべて音であった。

三日目、やっと島（六甲アイランド）を抜け出し街に出た。

